

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本裕美 新居知美 吉本佑司
学力向上推進員	教務課長	豊田尚子
委員	各学部長 主幹教諭 研究課長 人権進路課長 教務主任	原田真理 宮本洋子 谷口夏紀 森 浩一 森 雅美 二宮智子 片寄恭代 大内千代

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(中 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
よ さ	これまでの学びや経験等により習得した学びに向かう力、人と関わる力等を活かして、意欲的に活動できる。保護者や関係機関等の支援を受け、安心・安全な環境の中で学習に取り組んでいる。	課題 成長期でもあり、身体の変形拘縮の進行、筋緊張のコントロールの困難、てんかん発作などに変化が見られる。身体の動きに制限が生じたり、健康・呼吸状態に課題があったりする生徒の割合が増している。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
個々の生徒の実態やニーズに応じた身体の動きを学習することで、動きの獲得や健康状態の維持を図り、学校生活を送る上での基礎となる力を身につけることができる。	自立活動の身体の動きに関わる目標において「目標に十分達している」「目標に達している」という評価が中学部全生徒の90%以上となる。	評価
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
自立活動の身体の動きに関わる指導について、担当教員間での検討や、外部専門家からの助言などを受け、指導の充実を図る。	①全生徒についてケース会等で自立活動の身体の動きに関わる指導内容や方法について、担当教員間で検討する。 ②学部で5名以上の生徒に対し外部専門家から身体の動きについての助言を受け、情報共有を図る。	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		